

2007 東京学芸大24時間実験ラン

(2007年11月10～11日)

ゼッケンNo. 21 山猫@滋賀

はじめに

2007年はほとんど近辺しか走っておらず、大会も鯖街道のショートコースと立山のみ、他にはGWには外すことができない、ひとりさくら道くらいだった。ただ、7月1ヶ月間は福岡に出張したので、毎週のように湯布院や別府などに温泉ランができた。しかし、自分自身を試す場所がなく、たまには気合いを入れて走る大会にも出たいとの思いで、昨年参加した「東京学芸大24時間実験ラン」に申し込むことにした。申込みもギリギリまで延ばせるし、参加料も安い。エイドは素晴らしく充実しているし、昨年初めて24時間を経験したが、思ったより学芸大の森は気持ち良く走らせて貰えた。

10月半ば、何となくこがみちゃんにそのことをメールすると、こがみちゃんも参加するとの返事があった。参加しないとメールしたのに、予想は完全に外れた。しかし、いつも笑顔のこがみちゃんの参加は元気が貰えるだろうと有り難かった。そして、何よりも最大のライバルの参加は気持ちを高ぶらせてくれた。

前日

9日、仕事を終え、帰ってから慌ただしく夕食を食べ、風呂に入った後、9時半頃に東京に向かった。駅に着くと電車が遅れているとの表示があり、約20分遅れとのこと。駅員に実際どれくらい遅れているのか聞いても、「すぐ近くまで来ているんやけど・・・」の返事しか貰えず、結局のところ駅員もわからないようだ。「大垣からムーンライトに乗ることになっているんやけど、間に合わんと東京に行けへんや」「米原以降はJRでも会社が違うんで・・・」何とか間に合って欲しいの心境で電車が来るのを待つ。約25分遅れでホームに電車が入って来た。この後、乗り継ぎがどうなるのか不安だ。野洲で後から来る新快速の方が先に出発すると放送が入ったので、新快速を待つもなかなか来ない。今まで乗っていた普通はずっと止まっていた。ようやく灯りが見え、新快速が入ってきた。ダイヤは乱れているので米原に何分着かわからないが、以降は止まる駅が少ないので遅れることはないと思う。

米原では大垣行きが待っていてくれたので初めて安堵できた。約8分遅れで出発。大垣で15分の待ち時間があるので、この遅れは問題ない。大垣に着いて間もなく「ムーンライトながら」は出発した。この時すでに小雨状態だった。隣の席は学生で京都ラクロスと背中には書かれていた。京大生のような。1時間おきくらいに停車を繰り返して、東京駅には朝5時04分に到着。



当日朝

真っ暗だ。そのまま中央線のホームに向かう。早朝なので座席を独り占めして寝ている人も多い。折り返しの電車なのに、寝たまま戻って行く人もいる。田舎に住んでいると絶対に見掛けない光景だ。

新宿には6時頃に着いた。まだ辺りは暗く、外は冷たい雨が降っていた。予め調べておいた甲州街道沿いの「すき家」で朝食の牛丼を食べた後、こちら調べておいたネット喫茶で時間を潰そうと本降りの中、傘を差して行くと最初の2軒は満室。結局、すき家横の「マンボ一」という店に入った。早朝割引で1時間200円と安かった。ブログの更新やニュースを見て、1時間余りで店を出る。新宿駅構内で「い



か天そば」を食べて、中央線で武蔵小金井に向かう。中央線は同じ快速でも電車毎に止まる駅が違うので要注意だ。車内でこがみちゃんからメールが入り、すでに武蔵小金井に着いたとのこと。新宿から20分くらいで武蔵小金井に着いた。雨が降っているの、ここからはバスだ。中央循環線に乗り、学芸大東口で降りる。去年は歩いて行ったが、バスはやはり早い。ゆっくり学芸大構内の森を眺めながら、卓球場に向かった。48時間走の参加者がコースを走るなり、歩くなりされていた。24時間近くコース上に居られるので何方もかなりきつそうだった。

スタート前の会場

去年はコース内の脇にダンボールやビニールを敷いて荷物を置いたが、今年はどうするか気になっていた。しかし、卓球場に荷物が置けるとあって安心する。こがみちゃんが間もなく到着。卓球部が練習するので、荷物を邪魔にならないところへ移動する。こがみちゃんが受付で私の性別を見て「女性になってたわ～」と言った。見たら本当にそうになっていた。ヤマさんは影響ないでしょうとのこと。別に良いか？。タラさんからの差し入れが今年もあって、おたべを頂いた。いつものことながら、タラさんの気遣いには、ただただ頭が下がる。卓球場では走る前、24時間走前後の差を見るための肺機能検査を受けた。元来、肺活量が人よりかなり少ないので、吸う時間や息止めなども長くできなかった。

世界で活躍されるHIROKOさんやK村さんの姿もある。N原さんが現れ、故障中なので走らないと言って、参加賞だけ貰いに来られた。するとKBSの「レッツラン」のパーソナリティのわかちゃんの姿があり、驚く。取材とお手伝いを兼ねて、関西から来られたようだ。スタート前に渡辺先生の紹介で周回チェックして貰う学生と顔合わせする。今年も男性グループだった。どのグループもグループ名があるようだ。今年も雨の中なので大変だなあ～と思う。それにしても渡辺先生は大学教授とは到底思えないほど気楽なおっさんだ。



「内観療法やないけれど、時間走は自分と向き合わざるを得ない時間。色んなものを出し切って、帰って来て下さい。知らずの間に付いた余分なものもあるかもしれないけど、それも出し切って、力を使い果たして来て下さいね。そして、あの場でしか貰えない力を貰って前へ進んで下さい」「こがみちゃんに貰うパワーも大きいと思いますよ。互いに尻叩き合い、掛かって来い！と進んで下さい」「列車に無事に乗られたようでほっとしています。24時間走り、頑張って来て下さいね。今回は遠慮なく、頑張ると書かせて貰いました！。応援していますよ」「もう走ってはりますよね？。先は長いですが、頑張ってくださいね。朽木から応援しています」と走る前に温かい励ましのメールを頂き、大きな心の支えとなった。

24時間走

〇山競技委員長から競技説明があって、10時前に集合写真を撮り、一斉スタート。今ある自分の力全てを出すつもりで走ろうとスタートに立つ。24時間参加者は26人。48時間はこの時点で11名の方が走られていた。知っている人といえば、A部さんとHさん、前記のHIROKOさん、K村さんくらいか。今年も少ない。48時間は関西組ではN田さんの結婚式でも一緒だったY下さん、ひまわり娘さん、こちらも常連の愛知・T内さん、そしてお顔はわからないが、たんだいさんの掲示板にいつも書き込まれている、むらもとさんも参加と掲示板にあったのでお会いできるかもしれない。

小雨がぱらつく中、時計と反対周りの周回が始まった。1周は628.610mだ。4時間おきに向きを変える。去年は股関節痛に苦しみながらも155.9km進めたが、今年の状態は良いとはいえないまでも、それ以上は絶対に進みたいとの思いが強かった。ウェアだが、下は雨で寒そうだったのでランパンの上にロングタイツ、上はWARMの長袖シャツ、シューズはロング始めてのアシックス・ニューヨークにした。雨なのでカッパを着ている人も多かった。今回はできるだけ押さえ加減で長い長い24時間に臨もうと心掛けていた。ペースはキロ6分30秒くらいで進む。去年は最初からバンバン飛ばす人もいたが、今年もみんなゆっくりペースなので惑わされず、楽だ。K枝さんも参加と聞いていたが、姿が見えない。来られていないようだ。淡々としたペースで周回するが、昨年よりは快調だ。痛みがないということは気



分まで違う。こがみちゃんとデートランしようと思っていたが、スタートから先に進むことになってしまった。

1周を4分弱のペースで進む。小雨が降り続けているので、暑がりの私は体温が上昇せず、幸いの天気だった。汗は出ていると思うが雨に濡れ、皮膚から出る量がかなり少ない。しかし、その反面トイレが非常に近くなり、3~4周すると必ず1回トイレに駆け込むようになった。正面エイド前のトイレは奥まっているので、校舎側のコース横にあるトイレに駆け込んだ。ひまわり娘さんからは「ランパンでないのですか?」と言われてしまう。真冬でもランパンという私のスタイルは全国的に知られているようだ?。

K村さんからは「年末の神宮24時間では一般の部もあり、サポートするので参加して下さい」と懇願され、「都合が付けば・・・」と言わざるを得なかった。普通のランナーならともかくも、さくら道を愛する私が、さくら道の女王・K村さんから言われると汗も出る。エイドには周回切りの良い5周に1回の割で立ち寄ることにした。周回方向が変わる最初の4時間過ぎまでは快調に1周40分をキープできていた。トイレやエイドを除くと1周3分45秒くらいだったので、キロ6分ペースで進めた。エイドでは飲み物はコーラ中心で、パンやチョコレートを補給する。

今回初めてHIROKOさんの走りを見ることができた。タラさんからHIROKOさんのスタンスは他の方と全然違うとは聞いていたが、それをまさに目の辺りにした。上下動のない綺麗なフォームだが、走られている姿は周りまで緊張させる雰囲気があった。これが世界の走りかと思うに十分だった。スパルタスロンやネイチャーランで優勝されているHIROKOさんの走りを見られたこと自体、参加して良かったと思うのだった。途中で止められたのは2週間後の台湾前の練習のためだった。その後は着替えてエイドして下さっていたのはさすがだ。

エイドはご主人の〇山さんがずっと担当されていた。ウルトラを始めた12年前、今のように情報のない時代にウルトラの本を読むと世界に通用する日本で唯一のウルトラランナーは〇山さんただひとりだった。その〇山さんがエイドして下さっていることに感激を覚える。同じく12年前の野辺山で〇山夫妻と年輩女性の3人が歩かれている姿を発見し、あれが〇山夫妻かと憧れの眼差しで見た〇山夫妻が今この場におられること自体、不思議に思える。実業団選手のように特別な環境で費用をたっぷり用意されている

選手と違い、フルタイムで働き、その合間に練習し、さらに視覚障害者の伴走までされている〇山さんやS家さんの精神的な強さは実業団選手の比ではないと私は常々思っている。何よりも実業団トップ選手は身近な存在ではないが、〇山さんやS家さんは身近で、我々の延長線上にいる人に思えるからだ。

私を担当してくれた学生達はチェックしてくれているものの、切りの良い周回数ではなく、時々周回数を言ってくれる程度だったので、時計で10周毎にラップを取ってはいたが、正確さに欠けるので1週間違ったりしながら、ストップウォッチを押して走っていた。確実にペースを刻んでいた4時間過ぎまではラップを見れば自ら10周とわかったがペースが乱れ、疲れ始めると自分の記憶だけではどうすることもできなくなっていた。おそらく学生達も最初はどのような風に伝えたら良いのか、わからなかったのだろうと思う。その辺り、最初に打ち合わせしておけば良かったのかもしれない。担当の学生が変わり、その学生は走っていても見やすいところで1周毎に周回数を教えてくれ、「〇平さん、何周です。頑張ってください」と言って貰えるようになった。6、7時間した頃からだろうか、学生達はテント内の椅子にも座らずに雨の中、傘を差してランナーの走る両側で周回数を伝えながら、担当以外のランナーにまで応援してくれるようになった。

その頃、別の構内を使って周回の記録会のようなものが行われ始めた。学生中心だが、年輩の方の姿もある。エイドとしてアミノバリューのコップが多数置かれていた。24時間&48時間とは異なり、みんな真剣に走り、タイムを競っているように思えた。どういう記録会かはわからないが、ハーフくらいで終わったように思えた。午後2時頃だろうか、はっきり覚えていないが、ゆのさんが応援に駆けつけて下さった。まだ元気に走っていた頃なので、無様な姿を見せずにすんだ。

5時間くらいからペースが落ち、10周で50分前後になっていた。その頃、カップラーメンを頂き、休憩が長くなり始める。カップラーメンは1周前にお願ひし、湯を入れて用意して貰うようにした。去年参加の知恵だ。この頃からスタッフの見えない向こう正面では歩きが入り出し、ペースダウンする。エイドでは腰をしっかり降ろして、おにぎりやお菓子、オレンジなどを頂いた。飲み物も水、コーラ、アップルジュース、お茶、コーヒーなど、その時によって変えるようにした。トイレの回数は相変わらず、4周前後で1回は駆け込んでいた。人生で過去こんなにトイレに入ったことはないし、こんなに続くこともなかった。雨で最初から身体が冷えているからだろう。また冷えて汗が出ないことも影響しているはずだ。歩きが入りながらも1周のうちで半分は走ろうと決めていたので、それだけは昨年同様に守ることができた。時折、小雨が止むと暑く感じた。湿度が高い分、雨が体温上昇を防いでくれていることが良くわかる。

この頃、K澤さんという年輩の女性ランナーと話をしながら、走った。K澤さんは町田にお住まいでサリーさん&ちっちさんご夫婦をよくご存じとのこと。「N野さんや海宝さんも町田ですね」と言うと「町田は走られている方が多いですね」と言われた。トランス蝦夷はto えりも、to そうやを走られた後、今年アルティメイトも達成された凄い方のようなのだ。こがみちゃんも含めて3人で走った時、こがみちゃんは「今年の萩往還の千畳敷の上りで一緒になった」と話された。残念ながら、K澤さんはリタイアされたようだ。言葉遣いから、品の良さを感じる方で学生との会話で、この東京学芸大出身のようだった。

5時には完全に暗くなっていて、雨は時々止むが、概ね降っているような状態だった。日が暮れた頃になると担当の学生と一緒に話しながら歩いているランナー、学生と一緒に走りながら、いろいろ話をしているランナーの姿もあった。学生にとってそれも授業の一環かもしれない。或いは家族、友人が応援に来て、一緒に走ったり、歩いている人もいた。最初はガンガン飛ばしていたが、スタミナ切れして、走れなくなる人も何人か見掛けた。ウルトラ経験のないような走り方の人もいたが、そういう人は息切れが早いようだ。周回ならではの様々な形がある。

8時間を経過した午後6時頃だと思うが、私の担当の学生のひとりが「一緒に走っても良いですか？」と聞いてきたので「どうぞ」と応え、6、7周一緒に走った。彼は都内で生まれ育ったそうで、現在4人しかいない学芸大のボクシング部に在籍、明日(11/11)に試合があるので、走るのは良いタイミングだと言っていた。クラスを聞くとバンタム級とのこと。そこで「あしたのジョーの矢吹丈と同じやね」と言うと「そうですね。ところで力石徹は凄い減量してましたが、何級でした?」「彼はフェザー級のはず。元々、フェザー級でもきつかったのではなかったかな」などと会話した。あしたのジョーがブームを起こしていた頃、彼はまだ生まれていなかったどころか、彼の両親も子供だったのに、35年前のあしたのジョーの話が出来るなんて、嬉しいことだ。減量のことを聞くと彼は1キロの減量で済むので良いが、4、5キロ減量となると厳しく、体力も消耗するという。脂肪分を摂れないので水分だけのこともあり、減量でスタミナ減を防ぐためには走り込みが大事だとも言っていた。ところで彼は翌11日の試合に勝ったのだろうか？

波はあるが、区切りの100kmまでは何とか頑張ろうと思っていた。その頃、うどんを頂いた。10

時間経過した頃、その前から少し足に違和感を感じていたの、ロキソニンと胃薬を飲む。痛み止めを飲むことで怠さがなくなり、身体が動きやすくなれば良いと思ったからだ。12時間通過時で152周、95.5kmだった。1周は620m少しと記憶していたので、160周行けば100kmになると計算しながら進む。記録を見るとスタートから12時間30分で100kmを達成できた。夜10時半頃だった。去年より40分くらい早い。12時間通過時点でこがみちゃんには7週のリードがあった。

夜中11時頃だろうか？、雨がいきなり強く降り出した。音を立てて降るくらいの量だった。コース東側には大きな水溜まりがあつという間にでき、水溜まりを避けながら、走らざるを得なかった。水溜まりは時計回りとは反対の時は遠くから見えるので良いが、時計回りの場合、角になるのでどこが水溜まりなのか見えなくなって困った。この頃、雨で右脇が擦れて、ヒリヒリする痛みが出始めた。まだまだ半分過ぎたばかりだ。エイドでメンソレータムがあるか聞くと、ないとのこと。ワセリンならあると言われたが、ワセリンはベトベトになるので最近は塗ったことがないし、とりあえず辛抱していれば、過去の経験から痛みは麻痺するだろうと諦める。11時間で終えられたHIROKOさんはこの時、すでにエイドに回られていた。やっぱり違う。

12時前には雨の寒さが辛抱ができず、卓球場に戻ってウインドブレーカーと手袋を取り出して、少し休む。ウインドブレーカーを着るのは4月GWのひとりさくら道以来となる。暑いかもわからないと思いつつながら、戻って走り出す。確かに少し暑い、この先は更に眠くなり、休む時間も長くなると思うので良いタイミングだった。エイドには5週間隔くらいで入るように心掛けて進むが、歩くスピードも遅くなり始めた。雨の中、学生達は休むことなく、激励してくれた。有り難い。だから、辛くても手抜きできない雰囲気を感じる。そして、遠く関西から高い交通費を使ってまで参加している以上、自分自身に対する手土産を持って帰りたいとの思いも強くあった。

しかし、襲ってくる眠気には人間勝てない。目を瞑って歩いたりしているうちに居眠り歩きになり、ドキ～と目が覚めていつの間にここまで来たのだろうかと思うことが何度もあった。正面エイド側だけは絶対に歩くまいと心に決めていたが、居眠り歩きでエイド近くまで歩いていたこともあった。居眠って歩いていただけに目が覚めた時、ふと「ここはどこ？」と思っぴっくりすることが何度かあった。ただエイド側コースで歩いたのはこの1回限りだった。進みたいとの気持ちはあるが、なかなか前に身体が進んでくれない。こがみちゃんには18時間時点までは上回っていたが、この先のこがみちゃんは凄い勢いで距離を伸ばしていった。

2時を回った頃、あまりのフラフラ状態で危険と思い、「休む」といって卓球場で横になる。しかし、入口は開いたままなので、冷たい風が入り込み、濡れた身体は休むことで更に冷えるという悪循環。とても横になれる状態ではなかった。10分ほど横にはなったが、外の雨中の方が暖かく感じた。どのランナーも寒さで一気に休む時間が長くなっていた。そんな中、女子トップのS木さんとこがみちゃんは元気だった。特にこがみちゃんはエイドの反対側では大声を発しながら、凄い勢いで駆け抜けて行った。とても10数時間走っているランナーとは思えなかった。これは、自分自身に対して渴を入れるために大声で唸っていたようだ。気合いが違う。

夜中はカップラーメン、豚汁？、コンソメスープ、コーヒーなど暖かい物を頂いた。濡れて疲れた身体はそうそう温まるものではないので、冷たい物は受け付けなくなっていた。4時5分頃にエイドの椅子にバスタオルを借りて座り、目を瞑って休む。20分くらい休んだが、雨が掛かり、余計に寒くなってきたので、テント中央にあるストーブ前に場所を変えて休む。少しはマシだ。椅子は満席だった。いつまでもこのままでは時間が経過するだけと思い、時計を見るともう50分も休んでいた。こんなに休んでいる場合ではないと慌てて、またコースに戻る。この間にこがみちゃんは距離を伸ばし、一気に逆転されていた。

こんな雨模様の中でも、一旦休むとなかなか立てないものだ。0時頃には1時間に10周進めば270周になるので、プラス α を考慮すれば、あわよくば280周近くまで行けるのではないかと目論んでいたが、考えが甘かったことを思い知らされる。計算上では普通にエイドに入り、居眠りしながらでも、休まずに進み続けていけば275周くらいは行けると思う。これはあくまでも計算上のことで、強い精神力を持ち続けることができるかどうか問題なのだ。6時になってもまだ薄暗い。ずっと何時間も眠たいまま時間が過ぎて行くが、あと4時間しかない。「昨年の記録を超えないと・・・」と焦りが増す。この時、昨年の記録は158kmとばかり思っていた。6時以降は10周を55分前後で進めた。5、6周毎のエイドは変えなかったが、エイドで椅子に腰掛けるだけで次の周回は楽に感じた。こんなにも違うものか。夜から朝方に掛けて、手伝いと応援に来られた、ドン亀さん、楽松さん、K谷野さんの姿もあった。

7時半頃、半袖シャツ、ランパン姿のS家Rーさんが学芸大コース内を走られていた。2週間後の台湾24時間の練習のために顔を出されたようだ。もしかしてとは思っていたが、世界のS家さんと1年半振

りに会えるなんて、嬉しい。しかし、私はボロボロで半分歩き、半分ヨレヨレ走りをするだけだった。走られているS家さんに結婚されたこと、カナダの世界選手権で優勝されたことの二重のお祝いの言葉を言うと、丁寧に立ち止まって「ありがとうございます」と応えて下さった。S家さんに立ち止まって貰うとは恐縮だ。また初めて走られている姿を目の辺りにしたが、身長があるのでゆったりとした感じだった。女子学生数人がS家さんの後ろを必死で追い掛けるが、途中で頓挫する人、1周付いていけた人いろいろだった。そんな場面が繰り返しあり、走ったり歩いたりしながらも気分を和らげてくれた。こがみちゃんと「S家さんはあのペースで24時間走り切られるやから、凄いなあ〜」と話す。S家さんのペースは5分切るくらいではなかったか？。2時間ほど走られたようだが、この時間、世界のS家さんと一緒に走れたこと自体、素晴らしいことだと思う。こがみちゃんのペースは一向に落ちることなく、元気に周回を刻まれていた。



歩くにしても早歩きは無理な状態だった。残り30分を切り、歩いていた人が走り出したり、ペースを上げたりし始める。周回チェックの学生達の応援もヒートアップ。私も260周をクリアし、とりあえず残り6周を目指して頑張って走り出した。何れにしても2007年の学芸大24時間の最後の30分は貴重な30分なのだ。競技委員長のO山さんが「もう最後、頑張って走りましょう！」と声を掛けられる。しかし、エイドの反対側になる向こう正面では歩いていた。

残り10分くらいになり、ジタバタしても残りわずか、もう歩いている訳にはいかなかった。頑張っペースを上げて走る。1周は3分台に上がり、残り3分弱になった時、最後の1周は目一杯頑張っ走った。24時間をわずかに過ぎ、最終周回を終えてゴール。最後の盛り上がりは去年とは比べものにならないくらいに感じた。266周、167.2kmを達成することができ、昨年より11.3km距離が伸びた。ヤマさんに周回チェックしてくれた学生と一緒に写真を撮って貰う。こがみちゃんの結果は私より10周多い、173.5kmだった。この差は永遠に埋まらない差かもしれない。

走り終えて

24時間長かった。しかし、終わってみればもっと時間が欲しかった。あの時、あんなに休んでいなければもっと距離を進めたのと思うと残念な気持ちの方が強かった。終わったことを悔いても仕方ない。今は冷えて、疲れて、汚れた身体を洗って気持ち良くしたい。昨年同様にバスケット部の部室のシャワーを借りて、汗と汚れを簡単に落とす。相変わらず汚い部室だ。



卓球場に戻ってから、走った後の結果を測定する肺機能検査を受けた。吸い込みがだいぶ弱くなり、吐き出す時間も短くなっていた。走る前に対して、肺活量(VC)は63%、努力性肺活量(FVC)は50%だった。言い訳になるが、走った後の測定では腹に力が入らず、思いっきり吸ったり、吐いたりできなかったような気がした。結果は換気機能が中程度の拘束性障害と出ていた。少し心配だ。

その後、卓球場で簡単な打ち上げが行われた。その前にその場に居合わせた台湾24時間に参加されるS家さんから挨拶があり、みんな拍手で健闘を祈った。床に座って、渡辺先生、事務局のヤマさんを囲み、10人あまりで缶ビールとつまみをかじりながら、自己紹介して和気藹々の1時間ほどを過ごした。渡辺先生はとても大学教授とは思えない気さくな方だった。こがみちゃんは最初寝ていたが、途中から起きて自己紹介された。「にちなんおろち」で渡辺先生が挨拶された時、「地元の議員さんかと思った」と笑いながら話され、挨拶した議員が走っていると思ったら、後で渡辺先生と知ったそうだ。渡辺先生ははにかみながら、笑われていた。関西組はY下さん、ひまわり娘さん、初対面の「チーム居酒屋『八』」のF井さん、こがみちゃん、私の5人だった。最後の1本締めはヤマさんの指名で私がしたが、何と初めての試みだった。



1時間ほどで宴も終わり、学芸大を後にする。東口ではなく、正面から出た。学芸大構内の道路両側にある並木はどれも色付いていた。正門までは距離があるので、だいぶ歩いた。そして、武蔵小金井駅行きのバスに乗る。この時は雨が止んでいた。腹が減ったので、関西組5人にたんだいさんの掲示板「来者如帰」に登場されている、むらもとさんも加わって、駅前の西友で13時頃から遅い昼食をした。武蔵小金井駅前には食べるところがほとんどなかったが、何とか1軒だけ見つかった。西友内の中華料理店だった。ご飯が食べたくて、中華丼を注文した。510円と安い店だった。味覚がなくなっていたので、ビールは止めた。「これからどうされます？」と聞かれ、「東京駅構内の東京温泉で時間を潰して、夜行電車で帰ります」と言うとF井さんが「甲州夢街道はリタイヤして東京温泉に向かったら、閉まっていた。駅員に聞くと無くなったと言われたので、東京ドームの方まで足を伸ばした」と言われた。「えっ」て感じた。予定が狂い、あっけに取られ、躊躇する。こがみちゃんが「ふぢやんに連絡するから、一緒にふぢやん宅にお邪魔しよう」と言ってくれたので、一緒に横浜に向かうことにした。

アフター、ふぢやん宅へ

その後はむらもとさん、こがみちゃんと立川経由でJR南武線に乗り換えて、武蔵溝ノ口に向かう。車内では座れた。その後、東急・田園都市線であずみ野に向かった。あずみ野には17時頃に着いた。すでに辺りは日が暮れていた。駅前にふぢやんが車で迎えに来てくれていた。その足で近くのスーパー銭湯「すすき野湯けむりの里」に連れて行って貰った。この時、雨足はやや強くなっていた。夕暮れ時のスーパー銭湯は人で溢れていた。汗と汚れを落とし、髭を剃って、熱い湯と水風呂に交互に浸かって疲れを癒した。18時半にスーパー銭湯を出て、ふぢやん宅にお邪魔する。横浜は坂の多い町だった。こがみちゃんは前泊させて貰われていたようなので、お邪魔してもリラックスされていた。ご主人と4人でシャンパンを飲みながら、用意されていたおでんを頂いた。ふぢやんは大会では横目で見たり、HPで知っていたが、話したのは今回が初めてだったので、緊張した。当然、ふぢやんは私のことを知らない。昨年生まれた女の子は可愛く、ふぢやんが美人なので、大人になればきっと美人になることだろう。

帰路

21時までお邪魔した後、タクシーであずみ野に行き、東急・田園都市線で渋谷に向かった。車内でこがみちゃんはほとんど熟睡状態だった。私の反対側にもたれるようで、隣の年輩の女性は前のめりになって座られていた。こがみちゃんもたれる度に私は起こす役目をした。私の方にもたれてくれたら良かったのと思った。渋谷で山手線に乗り換えするが、22時頃だというのに真昼と変わらない人波でごった返していた。やっぱり東京は凄いわ。

新宿からバスで帰られるこがみちゃんと別れ、時計回りで東京駅に向かうと22時半頃に着けた。こがみちゃんから無事に新宿バスターミナルに着いたとのメールが入り、保護者の役目を果たしてひと安心。そして、弁当と缶ビールを買い、23時10分の大垣行き「ムーンライトながら」を待つ。帰りのムーン

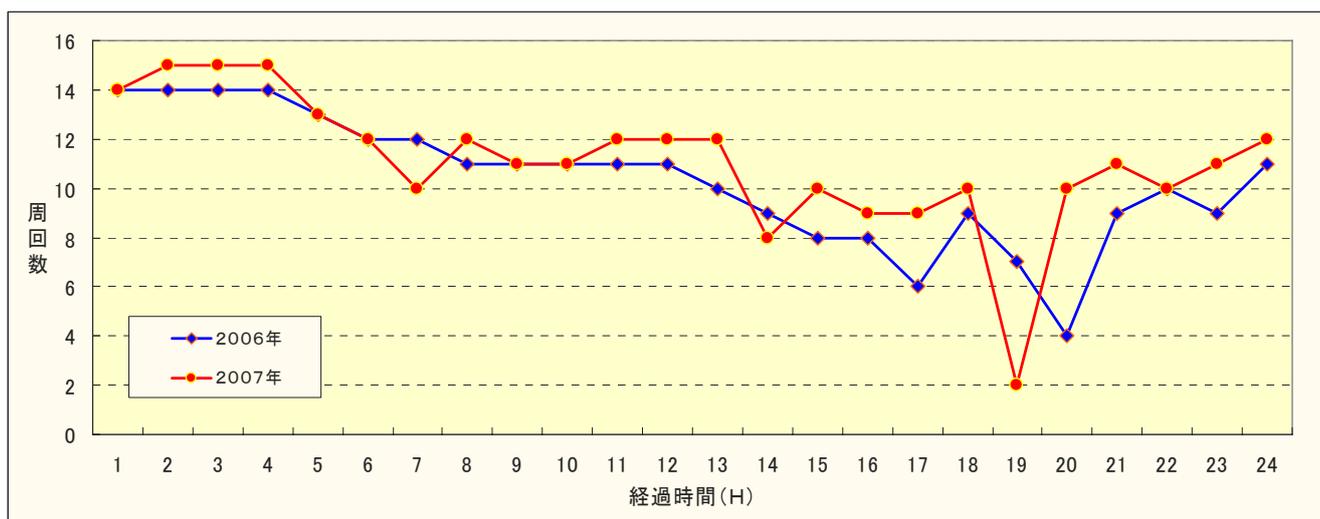
ライトは行きと違って、空席が2/3くらいあり、横の席も空いていた。本日午後3回目の食事をする。夜食だ。行きは5時間半くらいだったが、帰りは7時間半掛かるので、寝ていないこともあり、その分ゆっくり眠れた。大垣には6時55分に到着。7時発の加古川行きに乗り換えて、家には8時半頃着いた。汚れた衣類などを洗濯機に突っ込み、会社に向かう。

「100マイル超えやりましたね！。まあまあどころやないですよ、その天候で。達成感を実感して下さい。消耗はかなりやと思います。早く帰っておいでね」「条件の厳しい中、頑張られましたね。納得の出来る結果ですよね。おめでとうございます。しばらくゆっくりして下さいね」「お疲れ様でした。目標達成おめでとうございます。また、話聞かせて下さい」と走り終えてからも労りのメールを貰った。仲間とは有り難い、かけがえのない存在だ。

最後に

2回目の24時間走は途中、怠さや違和感を和らげるためにロキソニンを2回飲んだが、何のトラブルもなく無事終わることができた。その後、1日くらいしてから足の浮腫が出たが、3日ほどで収まった。24時間グルグル回り続けることは自分の性格上、絶対に無理だと思っていた。しかし、昨年走ってみて、ワンウェイなどのウルトラマラソンでは経験できない、全く違う世界であることに気付いた。常に見られ続けていること、周りのみんなが頑張っている姿を常に目のあたりにできること、それによって自らも我慢し続けられること。結果的に自分自身と24時間向き合わざるを得なくなることの大切さを教えてくれた貴重な24時間だった。同じ走ることに変わりないが、決まった距離を何時間何分で走る世界と、24時間で何キロ走れるかの世界とは全く異質のもので、夜を徹しての時間走は挑戦的な姿勢で臨まないと自分に負けてしまう。絶対に逃げてはいけない24時間だと感じた。この日、暑い時は無理だが、条件さえ整えば170kmは超えられると確信した。うまくいけば180kmも・・・と思う。たまには「挑戦」という二文字を追うことも必要だと感じた。

記録をグラフ化していると何と後にも先にもあり得ないであろう記録は男子トップだった。真面目に走れば私よりもっと距離を伸ばせる人もいたはずだが、途中で帰ったり、あるいは長く休んだりされた方もいたので、結果24時間参加の男子17人の中でそうってしまった。女子はS木さん、こがみちゃんの順でS木さんはスパルタスロン完走者だと聞いた。私は総合でも3番目だったので、記憶に残る24時間走となった。



ゼッケン	前半	後半	合計	距離	前半%	後半%
20	102	77	179	112.521km	57%	43%
25	137	97	234	147.095km	59%	41%
26	145	131	276	173.496km	53%	47%
27	163	128	291	182.926km	56%	44%
28	126	82	208	130.751km	61%	39%
29	140	78	218	137.037km	64%	36%
30	139	86	225	141.437km	62%	38%
21	152	114	266	167.210km	57%	43%
32	141	99	240	150.866km	59%	41%
33	177	54	231	145.209km	77%	23%
35	135	51	186	116.921km	73%	27%
36	115	63	178	111.893km	65%	35%
38	128	51	179	112.521km	72%	28%
39	146	108	254	159.667km	57%	43%
40	126	88	214	134.523km	59%	41%
44	174	87	261	164.067km	67%	33%
46	100	62	162	101.835km	62%	38%
48	155	95	250	157.153km	62%	38%
49	149	51	200	125.722km	75%	26%
50	166	91	257	161.553km	65%	35%

	前半	後半
女子平均	59%	41%
男子平均	65%	35%
全体平均	63%	37%

